

学 校 概 要

1 学校名

豊橋市立多米小学校

【 校章 】

2 所在地等

〒440-0027 豊橋市多米中町二丁目27-1

Tel : (0532)62-6167 Fax : (0532)65-1208

URL : <http://www.tame-e.toyohashi.ed.jp>

e-mail: tame-e@toyohashi.ed.jp



【交通案内】

①豊橋駅より 豊橋鉄道バス「赤岩口」行 「柳原住宅」バス停下車 徒歩 3分

②豊橋駅より 豊橋鉄道市内線（路面電車）「赤岩口」行 終点赤岩口下車

豊橋鉄道バス 「豊橋駅前」行 「柳原住宅」バス停下車 徒歩3分

3 学校規模

学級数 : 通常学級 23 特別支援学級 6 合計29学級

教職員数 : 校長1 教頭1 事務長1 主幹1 教諭39 養護教諭2

常勤講師7 非常勤講師1 支援員2 語学指導員2 外国人SA1

事務主事1 用務員1 合計60名

児童数 : 男子380名 女子361名 合計741名

4 本校の教育

(1) 本校の歴史

明治6年、本校は義塾として宝珠寺に開校したことに始まる。そして、石巻村より分離し豊橋市に合併したことで、豊橋市立多米尋常小学校となった。昭和22年、豊橋市立多米小学校となり、51年から新校地にて教育活動が始められ、現在に至る。

多米小学校の北側には旧多米小学校校舎がその敷地とともに残っている。それは、市内に残る唯一の木造校舎で、多米国民学校として昭和19年に改築されたものである。現在は、「豊橋市民俗資料収蔵室」として活用され、映画「早咲きの花」のロケ地にもなった。子どもたちは古多米（ふるため）と呼び親しんでいる。

(2) 教育目標

①校訓 力いっぱいがんばろう

②めざす子どもの姿

- ・明るく、礼儀正しい子
- ・進んで学び、深く考える子
- ・たくましく、ねばり強い子

(3) 経営方針 「多米っ子をみんなで育む」

子どものよさを見つけ、認める

- 学校・学年・学級の活動や授業で「多米っ子」を鍛えるための活力ある教育活動を創造する。
 - ・特別支援教育の理念の浸透を図る。
 - ・何事にもねばり強く挑戦する心と、相手を思いやる優しさを教育活動全般の中で育成する。
 - ・授業力や指導力向上のための自己研鑽、相互研鑽を積み重ねる。
- 子ども・保護者・地域から信頼される魅力ある教職員、学校をめざす。
 - ・評価を学校の改善、教師の意識改革に生かす。

(4) 重点努力目標

「自己有用感」を高め、「共創意識」がもてるよう、あらゆる場面で子どもたちを支援する。

ア 学 習

- ・ねばり強く学年の学習基盤をきちんと身につけ、確かな学力をつける。
- ・低学年は「躰」、中学年は「習慣化」、高学年は「自主性」を柱にした指導に取り組む。
- ・体験や見学活動を取り入れ、地域の人的、自然、文化的教育力を積極的に活用する。
- ・学ぶ意欲（わかった、できた、もっとやりたい）をわきたたせる工夫をする。
- ・ノート指導を中心に言語活動の基礎を培い、一人一人を大切にされた授業に取り組む。
- ・子どもが主役となり、自分たちで創る実感のある行事を計画的に実施する。
- ・部活動及び器械運動、水泳、マラソン、縄跳び等、目標を設定してねばり強く継続して取り組ませることによって体力・精神力を鍛える。

イ 生 活

- ・笑顔であいさつ、大きな声で返事ができるようにあらゆる活動の場面で指導する。
- ・集団生活での約束やきまりを守り、自分の役割と責任を果たせるような機会を設定し、支援しながら取り組ませる。
- ・困り感が軽減され、活躍の場が保障されるように一人一人をサポートする。

ウ 健康・安全

- ・健康な生活習慣が身につくように保健・生活指導をする。（早寝、早起き、朝食、歯磨き等）
- ・交通事故、けが、不審者などの潜在的危険を自ら回避し、自分の命は自分で守ることができるように、安全指導を徹底する。

エ 開かれた学校

- ・子どもも、保護者も、地域の方も気軽に話や相談ができるよう、さらに明るい雰囲気づくり、温かい人間関係づくりに努める。
- ・情報を発信し、共有化に努める。（学校新聞、学年・学級通信、ホームページ、メール配信等）
- ・保護者や児童からアンケートをとり改善に生かすようにする。（学校評価）

Application for Participation

Associated Schools Project(ASP)

for Promoting International Education

みんなが共存できる町 "多米"

～地域の自然、文化、人から学ぶ活動を通して～

Outline of the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

1. Description of the Project(プロジェクトの概説)

本校は、近くに花柄山やホテル舞う朝倉川、内山川があり、子どもたちは豊かな自然の中で学習活動を行っている。また、全校児童742人のうち36人が特別支援学級児童、122人が外国籍児童で、文化、言語、国籍をはじめとするさまざまな違いをお互いに理解し、認め合いながら、成長することが大切だと考える。地域の自然や文化人から学ぶ体験的な活動を、ユニバーサルデザインを重視して進めていくことで、自分の周りの自然や環境、人々を大切にす気持ち育てたい。

本校では、きれいな水にしか住めないホテルを守るために、毎年春には、朝倉川の清掃を地域の人たちと行っている。2年生の生活科では、川を生かした単元を組んで教育課程に組み込んでいる。また、「カナリーニョの会」など、PTAとともにブラジル料理を作って交流を図っている。

「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育 (ESD)」の推進のために、その理念を意識して、ESD アクティビティプログラムをつくり、継続して実践を行っていくこととした。将来にわたり、地域の自然や環境、人々を大切に、周りのいろいろなものと共存できる子どもたちを育ていこうと考えている。

2. Objectives of the Project(プロジェクトの目的)

学校のすぐそばを流れる朝倉川は、5月になると美しいホテルの光で包まれる。その川の清掃をかわきりに、地域の自然や文化、人から学ぶ活動を繰り返す。貴重な校区の宝を誇りに思い、これから先も自分たちの手で大切に守っていこうという気持ちをもたせたい。また、自分の周りのものとあたたかいかわりをもち、みんなが幸せに暮らしていけることを願って行動できる子をめざして取り組みたい。

そのために本校では、以下の4つの活動で次のような目標を掲げる。

(1) 地域の自然とふれ合う活動

① 朝倉川清掃活動

② ホテルを観る会

③ 2年生活科「大好き！自然いっぱいの多米の町～大切にしたいね すてきな川～」

- ・朝倉川の川岸に下りて活動することで川を身近に感じたり、愛着をもったりできるようにする。
- ・川の清掃をしたり、これからの朝倉川について考えたりすることで、自分たちの手で環境を守っているという実感をもたせる。
- ・自然のすばらしさ、美しさを実感することで、これからも自然を守っていこうという気持ちを高める。

(2) 地域の文化、人から学ぶ活動

- ① 1年生活科「昔遊びの会」
- ② 5年総合的な学習「多米っ子ブランドをそだてよう（米づくり）」
- ③ 6年総合的な学習「竹ペンをつくろう」

- ・校区の方から伝統的な遊びや文化を教えていただくことで、時を経て受け継がれてきたもののよさを感じさせ、受け継いでいこうという気持ちを高める。
- ・校区の方から教えていただくことで、人とかわること、人から学ぶことの価値や心地よさを感じさせ、これからも積極的にかわっていこうという気持ちを高める。

(3) 外国の文化にふれる活動

(ア) カナリーニョの会

(イ) ポルトガル語でのスピーチ

- ・外国の料理を作って食べたり、スピーチを聞いたりすることで、日本以外の国に対する理解を深め、いろいろな人が一緒に暮らしているという意識をもたせる。
- ・自分の国の文化や言葉を知ってもらう活動を通して、みんなに認めてもらうことの喜びを味わったり自信をもったりできるようにする。

3. Execution (プロジェクトの実施)

(1) 活動を進めるためのESDカレンダー

月 学年	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
1年	昔遊び											
2年	生活科 地域教材「校区の川を使った単元」											
3年	泥だんご づくり											
4年	CAP 人権教育											
5年	米 作 り								収穫祭			
6年	竹ペン づくり											
行事 等	朝倉川 清掃活動					ホテルを 観る会						カナリー ニョの会
	ポルトガル語でのスピーチ											

(2) 地域の自然とふれ合う活動

毎年、4月に校区の朝倉川の清掃を地域にも呼びかけて行っている。朝倉川は、学校のすぐそばを流れており、6月にはホタルが舞う。ホタルを観る会を企画し、ホタルを守る会の方のお話を聞いてホタルを鑑賞したり、思い切り川と親しむ生活科の活動が繰り広げられたりしている。校区に愛着をもち、自然を大切にしていける子を育てている。



朝倉川清掃活動



2年生活科 朝倉川で生き物とり

(3) 地域の文化、人から学ぶ活動

1年生は、校区にある木造建築の旧校舎で、老人会のボランティアの方から昔の遊びを教わる。5年生は、校区の農家の方に田植えから稲刈り・脱穀まで、1年をかけて米作りを教えてもらい活動する。1月には、「感謝する会」を企画し、校区の岩谷緑地に親しむ会の方々の指導のもと五平餅づくりを行い、お世話になった農家の方、全校児童に食べてもらう。6年生は、竹細工を得意とする校区の方に教えてもらい「竹ペンづくり」を行う。地域の方とかがわる中で、文化や技のすばらしさと、校区の人から学ぶあたたかさを感じている。



1年 旧校舎にて昔遊びの会



5年 稲刈り

(4) 外国の文化にふれる活動

11月に、国際学級の教員と外国籍（ブラジル）児童の保護者による計画で、料理教室を開催し、児童や保護者に参加してもらう。いろいろな国や学年の子、その保護者が集まり、ブラジル料理を作って食べる活動をする中で、互いに理解し合ったり、仲よくなったりする。



カナリーニョの会

4 Type of materials to be used (使用する教材)

「小学校生活 全単元・全時間の授業のすべて」東洋館出版社 2012

「生活科 授業の基礎基本」小学館 2010

「ホタル百科」東京ゲンジボタル研究所

「愛知の農業 2013年度版」JA 愛知中央会

5 Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

児童の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・活動中の会話、活動内容の広がり、活動後のまとめや感想などから、児童の活動の成果を把握する。
- ・7月、12月に児童・保護者ともに「学校評価アンケート」を行い、「地域学習の有効性」、「共創意識についての意識の向上」等の項目について、変容から評価する。

上記の評価とともに、より有効な成果が得られるように、ESD カレンダーや活動内容を見直し、改善していきたい。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

Date 15/Jan./2014

Principal's name

Position, Principal

Institution's name

Tame Elementary School